

琉球新報 2019.10.03 琉球新報朝刊 19頁 4社 1版 写図表有 (全506字)

【東京】沖縄から持ち出されて京都大学で保管されている琉球人の遺骨を沖縄に戻すよう求める訴訟を、関東でも支援していこうと「琉球人遺骨返還請求訴訟を支える会／関東」の結成の集いが9月28日、東京都の在日本韓国YMCAアジア青少年センターで開かれた。約80人が集まり、関東地域でも琉球人遺骨返還の意義を訴えていくことを確認した。

裁判支援の組織は全国に広がっており、関東はこれまでの沖縄、大阪、奈良、滋賀に続いて5地域目。

共同代表に青木初子さんと上村英明さん、大仲尊さん、外間三枝子さんの4人が就き、顧問に照屋寛徳衆院議員と伊波洋一参院議員が就任した。

結成趣意書は、台湾大学に保管されていた遺骨は沖縄に返還されたと指摘し「遺骨を再風葬してマブイ（靈魂）を供養することは、子孫としての義務であり、権利だ。琉球人遺骨返還は、奪われた自らの歴史・過去を自らの言葉で語る主体回復運動だ」と訴えた。辺野古新基地建設を強行する政府の姿勢にも触れ「地元の民意を無視して強硬姿勢を変えない日本政府の植民地主義と真っ向から対決する運動でもある」と強調した。

結成の集いでは、返還請求訴訟の原告団団長の松島泰勝龍谷大教授が講演した。

琉球新報社